

【研究主題】

自分の考えをもち、伝え合う児童の育成

～問題解決学習を通して～

第1回 研究授業

令和8年6月24日（水）

第6学年 社会科「日本の歴史 縄文のむらから古墳のくにへ」

○単元の概要

狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の三つの事象を手掛かりに世の中の様子がむらからくにへと変化した過程。

○研究主題に迫るための手立て

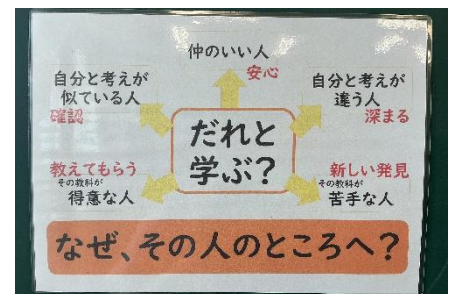
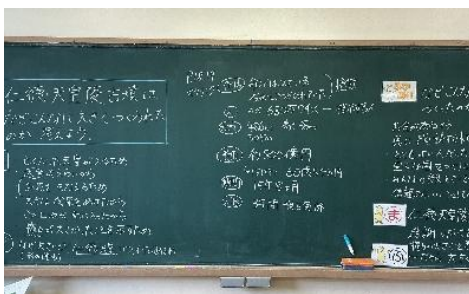
【視点1 考えをもたせるための手立て】

- ・めあての工夫…考えることに重きをおいためあてにする。
- ・ふかぼりタイムの実施…本時の課題を意識的に深く考える時間を設ける。

【視点2 伝え合うための手立て】

- ・質の高い交流…誰と学ぶのかを意識した話し合い活動を行う。
- ・シンキングツールの活用…歴史の流れや変化が表現しやすいシンキングツール（ストーリーマップ）を使い、学習のまとめを行う。

○授業の様子



【研究授業の成果と課題】

成果

- ・めあての言葉が児童からスムーズに出てきていた。
- ・誰と交流するのが掲示してあってよかった。

課題

- ・調べる視点が多く、資料の読み取りに時間がかかっていたので、ふかぼりタイムにもっと時間を取れるとよかった。
- ・ふかぼりタイムを充実させるための時間配分に工夫が必要である。
- ・交流では何をするのか目的意識があるとよかった。